

ライブラリー情報

No.33 Library Information December 2007 愛知江南短期大学図書委員会 発行

目次

- 子育ては時間の長短じゃない！ 濃密な時を刻んでくれる「絵本」 / 阿部 紀子
おすすめの絵本 / 川越 早希 / 北尾 知加 / 平野 有香 / 澤村 なつき
/ 玉田 めぐみ / 石垣 高司 / 高木 睦美 / 布目 美紀
DVD紹介 : 子ども時代にかえって見て欲しい
貸出 : 貸出統計 平成19年4月1日～11月30日
映画 : 鑑賞者数ランキング 平成19年11月30日現在

子育ては時間の長短じゃない！ 濃密な時を刻んでくれる「絵本」

現代幼児学科教授 阿部 紀子

保育園の「せんせい」になりたい人たちがこんなことを言った。

「実習に行ったとき、子どもたちがなついてくれてうれしかったけど、先生から、ほんとはこの子どもたち寂しいのよ、と言われ、勉強になった」

「母親が働いていて寂しい思いをしている子を、かわいがってあげる保育者になりたい」

ちょっと待って！「母親が働いている子は寂しい」と決めつけていない？ 保育園は「保育に欠ける子」を預かるとはいえ、幼児らしい生活ができるよう「保育」する場だ。子どもにとっては、「楽しい」から来る場所にしたい。「けなげに」保育園に来させてはいけない。「都会の狭い部屋で、24時間、親と向き合っているより、うちの園に来た方がずっと楽しく、成長できる」くらいの、気概を持った方がいい。保育園は保育のプロがいるところであり、子どもが思いっきり活動できる場所なのだ。保育園で「子どもが寂しい思いをしている」としたら、保育計画が十分ではないということだ。

こんなことを言う学生もいる。

「子どもがかわいそうだから、結婚して子どもができたなら退職して、自分で育てる」

あ～ん、保育者が「かわいそう」と思うような保育をしないで。入園や退職は個人の自由な判断だが、私は「子どもは保育園に行った方が幸せ」くらいに思っている。友だちがいて、遊びがあって、やりたいことが見つかる場所だ。親にとっても、子育て仲間ができ、愚痴が言えて、子育てのアドバイスとエネルギーがもらえる場所だ。保育園がそんな場所になっていないとしたら、素人の親が悪いのではなく、プロの保育者と保育行政が悪いのだ。もし自分の園の保育に自信が持てなかったら、他

の園の保育に学ぼう。図書館には実践記録の本がたくさんある。

子どもの世話ばかりで、長時間くっつくことが子育てのベストではない。かえって気持ちの切り替えができず、子育ての喜びにつながらない事態もありうる。接触の時間は短くても、濃密な時間を育むこと、愛情を確信できる「時」を作れるかどうかが大切だ。「親と離れている時間が長くてかわいそう」ではなく、親子が自然で濃いスキンシップがとれるよう、保育者は配慮しなくてはならない。親を指導する意味ではない。保育園の活動が楽しければ、家庭にまで楽しさや活動は延長する。子どもをよく見て、できることを誉め、知らせれば、親はうれしく子どもに向き合うことができるのだ。

日が落ちるのが速い冬の寒い夕、迎えにいくと、真っ暗な園庭にたった独りで縄跳びをしている子どもがいた。保育室の灯りが逆光となって、顔が見えない。「寒いのに誰だろう？」と近づくと、我が子だった。

こんな情景に「かわいそう～」と思うのは、読みが浅い。子どもに対する偏見でもある。親はちょっと胸がつまるが、子どもの方は元気満面、笑顔で、「ちょっと待っててー！ もうちょっとで、できるようになるから」と、縄跳びを止めない。初めて知った縄跳びが、子どもの意欲に火をつけている。帰宅しても、練習につきあわされたのはもちろんである。縄跳びが「辛い課題」になるか、「楽しい遊び」になるかは、保育のやり方次第だ。こんなきっかけをもらって、子どもは成長していく。家庭だけでは、なかなか難しい。友だちという仲間がいないと、親から言われた上からの「課題」になりやすい。

私は子どもを生後8週間で預けるしかなかった。「子どもに申し訳ない」という気持ちは全くない。子どもたちは家ではできない遊びをたくさんできて、保育園が大好きだった。「行くのは当たり前じゃん？」と、大人になった今でも言う。夏休み明けだろうと、登園を渋ったことは一度もなかった。木枯らしの朝の登園、2歳の娘が風を避けるため、顔を横にしてしかめっ面になっている姿を、かわいながらもちょっとかわいそうに思い出す。それでも「イヤダ」と言ったことはない。友だちと先生と、おもちゃも遊びも待っているとわかっているから。「親の仕事を理解する」能力はないし、迎えにくるまで「我慢する」気もない。子どもの楽しい生活の場として当たり前で、「我慢」ではないのだ。迎えに行くと満面の笑みで、親をうれしくさせるが、次の瞬間「お迎えが早すぎる～」なんて言ったりする。紙芝居の最中だったり、居残り組がもらえるおやつのパン耳が楽しみだったりして…。家ではもっといいおやつを作っているのに！ 知らない人が見たら、「パン耳なんて、なんて貧しい！」と、同情するだろう。しかし子どもは、「居残り組だから、特別にもらえる楽しみ」と感じていて、友だちと一緒に食べるのがすごくうれしかったそうだ。迎えの親への満面の笑みを見て、「やっぱり寂しいんですね」と言った先生がいたが、深読みもいいとこだ。園も親も好き！ よく笑うのは健康に育っている証拠でもある。

子育てに100点満点はあり得ない。私には後悔もたくさんある。しかし、我が家にとって良かったのは、寝る前の絵本だったと思う。「くっついて読む」ということが大切だ。歌も一緒にたくさん歌った。接触する時間は短くても、確かな愛情が伝わる時間だ。絵や言葉や音の芸術は、人の心に響く。流行っていても、手抜きで作られた絵本や歌が、簡単に子どもたちに捨てられるのを見てきた。結局は、ゆったり心を遊ばせる良いものに引き寄せられる。絵本読みは、子どもだけでなく親も楽しい。スキンシップの絶好の場だ。

保育者になる人もならない人も、親になる人もならない人も、単なる近所の人になる人も、「決めつけ」はいけない。みんなで、子どもが幸せな時をすごせるよう、力を出し合っていこう。その助けの一つとして、「絵本を一緒に読む楽しさ」を知ってほしい。

おすすめの絵本



『はじめてのおつかい』

作：筒井 頼子
絵：林 明子
福音館書店

紹介：幼児教育専攻2年 川越 早希

誰もがいつかは体験する、おつかいをテーマにした作品です。子どもがこの絵本を読めば、たちまちこの中の主人公・みいちゃんになってしまうのです。お話は一筋縄ではいかず苦難がたくさんあります。ハプニングが起きるたびに一緒になってドコドキしたりハラハラしたりと、絵本の中なのにみいちゃん的心情が伝わってきます。

子どもだけではなく大人も楽しめるのがこの絵本の特徴の一つでもあります。ですから『はじめてのおつかい』は親子で読むことがお勧めです。二人して絵本の中に吸い込まれること間違いありません。

絵の中にはいろいろなストーリーが隠されています。何度も読んでみると、いろいろな発見をすると思います。私は一つ発見した時、他にもないかと隅々見ながら読んでいたため、いつの間にか読む時間が最初に比べて長くなっていました。ぜひみなさんもいろいろな発見を探しながら『はじめてのおつかい』を楽しんで読んでみて下さい。



『りんごがひとつ』

作・絵：ふくだ すぐる
岩崎書店

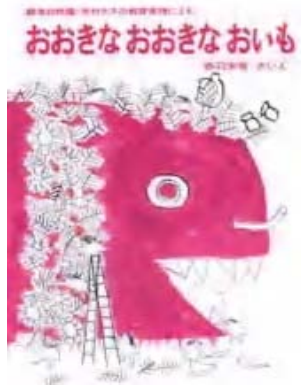
紹介：幼児教育専攻2年 北尾 知加

ひとつのりんごを、おなかをすかせた様々な動物たちが取り合い、物語が繰り広げられます。

そのひとつのりんごを手にとったサルは、他の動物に奪われないように必死で逃げようとします。しかし、サルや追いかける動物たちは、どうしてもひとつのりんごを自分のものにしたいためにある知恵をつかいます。そのある知恵とは一体……？

サルは最後まで他の動物から逃げることができるのか。一番最後にひとつのりんごを手にするのはどの動物なのか、見所だと思います。

私はこの作品を手に取り読んでると、心があたたかく優しい気持ちになりました。また、物語の途中では“プツ”と笑ってしまうような場面もありました。小さな子どもから大人まで楽しんで読むことのできる作品だと思います。絵の方も動物たちの表情がおもしろく描かれているのですが、サルの顔を特に重視しながら読んでいくと、心があたたかい気持ちになるのでおすすめです。



『おおきなおいも』

作・絵：赤羽 末吉
福音館書店

紹介：幼児教育専攻2年 平野 有香

「おおきなおいも、あったらいいな」とは、私が初めて読んだときに思ったことです。

私とこの本の出会いは幼稚園に通っていた頃で、芋掘り遠足の前に先生が読んでくれたのがきっかけです。

絵本の題名にもあるよう、おおきなおいもがとても印象的で、「本当に掘り出したい」「掘り出しちゃったらどうしよう」と、どきどきわくわくする一冊となっています。

この絵本の魅力は、親しみやすい挿絵・単純な色使い・表現の工夫・そして内容の面白さなどたくさんあります。子どもたちの興味を引くものが絵本の中に詰められており、じっくり読み返す度に面白さが倍増します。先日本屋で絵本を見つけ、とてもなつかしくなって買ってしまいました。大人になっても、私にとってこの絵本は心に残るのだらうと思います。今改めて読み返すと、子どもでも描けそうなこの挿絵が、絵本の良さを引き立てているのだなと思います。今度の幼稚園実習でぜひ子どもたちに読んであげたいと思います。



『どうぶつはいくあそび』

作：岸田 衿子
絵：片山 健
のら書店

紹介：幼児教育専攻2年 澤村 なつき

私が、この絵本を手にとったきっかけは、他の絵本とは題名から違う感じがしたからです。（どうぶつはいくあそびって何だろう。動物を使って俳句を作る絵本かなあ）と思い、題名の不思議さにわくわくし、ページを開いていくと、1ページごとに動物たち自身が作った俳句と絵が書かれていました。

なかには、ことりのびいこが作った俳句のように、“びちくちぺちぼ”など何を言っているのか分からない俳句もありますが、自分なりに動物の気持ちを考え、想像して読んでいました。俳句の隣には私達の言葉で訳が書いてあるので、それを見れば理解することができます。また、1つひとつの俳句に対して、かわうそのうそはちが感想を言っていて、それがまたおもしろく、とても楽しい絵本でした。

もし皆さんがこの絵本に出会ったら想像を膨らませ、絵と共に楽しんで読んで下さい。



『まいごのペンギン』

作：オリヴァー・ジェファーズ
にいるぶっくす

紹介：地域保育専攻2年 玉田 めぐみ

私はこの本を大人向けの絵本として紹介したいと思います。

この本は北アイルランドの絵本作家である、オリヴァー・ジェファーズという人が創作した本です。

とてもシンプルなタッチで描かれたイラストは、どこかユニークで愛らしい。キャラクターの表情は素朴で、時々見られる感情の変化がわかりやすく描かれています。

彩色は深みのある色使いで全体的に落ち着いていて、キャラクターの存在がひきたっています。どこかシュールな独特な世界が広がっていて、私はひきつけられました。

ストーリーの流れはゆったりとしていて、ほのぼのと心温まるお話です。愛らしいイラストとゆったりとした空気、日々の疲れを癒してくれると思います。心の疲れた時、この本を手にとって、少しでも元気になってもらったら良いな、と思います。

是非一度読んでみて下さい。



『かえるくんのたからもの』

作：田中章義
絵：とりごえ まり
東京新聞出版局

紹介：幼児教育専攻2年 石垣 高司

この絵本は、平凡なかえるくんが、落とし物の携帯電話を届けに、小さな小さな旅にでて、いろんな体験をしながら、自分の持っている大切な宝物に気づいていく物語です。

この絵本の素晴らしい所は、かえるくんが見つかる宝物が、物ではないという所です。例えば、途中で出会ったサルのおばあさんに歌ってあげて、ほめられて気づいた自分の声。ハチに背中を刺されて泣いているイノシシさんのために、懸命にジャンプをして、バンソウコウを付けてあげます。その時にミノムシくん「そのジャンプ力は、たからものだね」と言われ、自分の持っている宝物に気づきます。

また何とんでも、最初と最後に印象的に出てくる、フクロウの存在。そこで読者はハッと気づきます。実はいろんな場面でフクロウが、かえるくんを見守っていたことを。この絵本は、子どもはもちろん、大人までほのぼのしながらも、グッと考える絵本です。



『おひさまパン』

作・絵：エレサ・クレヴェン
訳：江國香織
金の星社

紹介：地域保育専攻2年 高木 睦美

風や雪が吹きすさび、街全体が暗くて淋しい雰囲気です。おひさまもかくれてしまい、動物たちも家の中にもってしまいます。

すると、いぬのパン屋さんが「それなら私が特別なパンを焼きましょう」と生地をこねはじめると、おひさまパンはふくらんでふくらんで・・・あたたかな光、パンの甘い香り、味、パン屋さんは街のみんなにおすそわけしました。おひさまにも「はい、どうぞ」すると、おひさまが街全体に光を降り注ぎ、空気をあたためたのです。動物たちは歌って、踊って楽しくゆかいに過ごせることができました。

ページを1枚めくる度に、心が解きほぐされ笑顔になれる絵本です。この絵本は内容はもちろんのこと絵だけでも楽しめます。紙ナプキンや、和紙、折り紙、クレヨン、油絵の具といった素材をたくさん使い、今にも動き出しそうな動物たち、豊かな自然を表しています。私はこの「おひさまパン」という絵本に出会えて良かったです。



『ねこざかな』

作・絵：わたなべ ゆういち
フレーベル館

紹介：地域保育専攻2年 布目 美紀

さかなつりをしていたねこがとても大きな魚をつりました。ねこが喜んでその魚をたべようとすると、反対に魚がねこを飲みこみ、ねこと魚が一体となって海に出る話です。魚がねこをのみこむというおかしな場面をあたりまえのように読むのではなく、「あれえ——何かちがうよねえ——？」と園児たちに語りかけながら読むと、園児たちも「変なの！」とおかしいことに気づいて反応してくれました。のみこまれた次のページを開く時は充分に間をとり、どうなってしまったかをそれぞれ想像する時間をつくとよいでしょう。先に保育者だけのぞいて、園児たちに「見たい」という気持ちにさせてもよいでしょう。そして途中魚とねこが鼻歌を歌うような場面があるので、いろんな工夫ができるでしょう。ねこと魚が一体になったページを見ると、園児たちはおもしろくて笑い、変わった光景に興味をわいてきている様子でした。

DVD紹介 子ども時代にかえって見て欲しい

図書館 課長 福田 憲彦

『たそがれ清兵衛』

井口清兵衛（真田広之）は、夕方・たそがれ時に仕事を終えると真っ直ぐ自宅に帰り、重度の痴呆症を病む老母と幼い二人の娘の世話、日々の暮らしに追われている。次第に身なりが薄汚れていく清兵衛。同僚たちはそんな彼をたそがれ清兵衛と呼んでいた。

春、幼なじみの朋江（宮沢りえ）が酒乱の夫と離縁したことを知らされる。朋江を飯沼家まで送ってきた清兵衛は、自分が倫之丞（朋江の兄）に代わって果し合いの相手をすると言ってしまう。

翌朝、真剣を抜き「斬るぞ」と息巻く甲田（酒乱の夫）を、清兵衛は木刀の小太刀一本であっさり倒す。

キムタクの「武士の一分」を見る前に『たそがれ清兵衛』をみて欲しい。両作品とも山田洋次監督が手がけた本格時代劇である。人間が生き生きとして個性的であることが許されなかった時代に清兵衛は武士としては失格だったかもしれない。ごく普通のどこにでもいる父親だったが、子どもたちは“——父のことを私は誇りに思っております——”という。この情愛のすばらしさ。

山田洋次監督は現代の子どもたちや親に何を問いかけたかったのであろうか？徹底したリアリズムに拘った山田洋次監督は、構想に10年以上、時代考証に1年以上かけて製作したという。

洗濯物をお父さんの下着と一緒に洗うのは“ヤメテ”という現代のお嬢様たちに、ぜひご覧いただきたい映画です。

『ALWAYS 三丁目の夕日』

新作・『ALWAYS 続・三丁目の夕日』が封切られる前にぜひ2年前の『ALWAYS 三丁目の夕日』をみてほしいと思う。舞台となった東京の下町、夕日町三丁目にある鈴木オートを訪ねてみてください。

そこに青森から集団就職で六子（堀北真希）がやってくる。その向かいにあるのが駄菓子屋「茶川商店」である。茶川竜之介（吉岡秀隆）は小説家。竜之介は石崎ヒロミ（小雪）から見ず知らずの子供・古行淳之介（須賀健太）を酔った勢いで預かってしまう。

この映画は殺伐とした昨今の社会情勢の中、忘れていた大事なものをまざまざと思い出させてくれます。明日への希望がわき、暖かく、さわやかな気分させてくれる。今、昭和30年代がブームといわれています。さーあなたもその頃に逆戻り……。

『ニュー・シネマ・パラダイス』

ローマに住んでいる映画監督サルヴァトーレは、故郷のシチリア島の村からアルフレードが死んだという知らせを受け取る。第二次世界大戦直後のシチリア島。映画の魅力にとりつかれた少年トト（サルヴァトーレの幼少時代）と、彼が父代わりに慕った映画技師アルフレードとの愛情がふれあう物語だ。

日本の社会も昔、映画をみながら、“まってました”と声がかかったり、拍手がおこったり、底抜けに明るい映画館風景があったこと知ってますか？シチリア島、イタリア南部が抱える貧困の問題を絡めながら、無邪気に明るいシチリア人のふるまいをユーモラスに映している。

随所に流れるテーマ曲のメロディラインは、見るものの心を感動の世界で包み込んでくれます。「映画通に捧げる映画」と評されるように、『駅馬車』『揺れる大地』など、スクリーンに浮かぶ古き良き名作の数々も見どころだが、人生を“どう生きるか”“人生との別れ”そんな永遠のテーマに迫る名作です。

****今回ご紹介した映画は、子どもの目線に立って大人たちの生き方が、時代を通して見えてくるようなストーリーの作品を選んでみました。****

貸出統計 平成 19 年度 4 月 1 日～11 月 30 日 (冊数)

学科	コース・専攻	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	合計
生活科学	建築・インテリア 1 年	0	1	1	1	0	0	1	0	4
	建築・インテリア 2 年	4	1	3	5	0	3	9	7	32
	食物栄養学 1 年	2	5	3	0	1	5	5	4	25
	食物栄養学 2 年	10	11	12	7	0	2	13	40	95
	食彩・調理師 1 年	1	6	23	4	0	3	8	2	47
	食彩・調理師 2 年	0	0	2	0	0	3	0	2	7
教 養	国際教育 1 年	0	3	1	0	2	13	11	29	59
	国際教育 2 年	0	1	0	0	0	2	6	5	14
	現代キャリア 1 年	9	26	1	0	0	0	0	0	36
	現代キャリア 2 年	8	6	2	1	0	1	1	2	21
社会福祉	社会福祉 1 年	0	0	3	0	0	0	5	0	8
	社会福祉 2 年	28	12	33	26	5	23	35	71	233
現代幼児	現代幼児 1 年	1	13	13	5	0	19	28	22	101
	幼児教育 2 年	16	92	11	27	5	79	25	7	262
	地域保育 2 年	1	41	3	10	0	15	7	12	89
3部 幼児	幼教 3 部 - 1 年	1	9	1	5	0	4	4	2	26
	幼教 3 部 - 2 年	0	2	8	0	0	16	16	5	47
	幼教 3 部 - 3 年	0	0	0	1	0	30	0	0	31
	合計	81	229	120	92	13	218	174	210	1137

映画鑑賞者数ランキング 平成 19 年度 4 月 1 日～11 月 30 日

	番号	タイトル	人数
1	D 304	パーレーツ・オブ・カリビアン デッドマン・チェスト	68
2	D 327	プラダを着た悪魔	57
3	D 334	ハチミツとクローバー	56
4	D 330	木更津キャッツアイ ワールドシリーズ	43
5	D 247	チャーリーとチョコレート工場	31
5	D 309	奥様は魔女	31
7	D 263	私の頭の中の消しゴム	30
7	D 277	シンデレラ	30
9	D 103	リロ アンド スティッチ	29
9	D 220	スパイダーマン2	29
11	D 140	パーレーツ・オブ・カリビアン	28
11	D 335	マリーアントワネット	28
13	D 45	ナイトメア・ビフォア・クリスマス	25
14	D 305	三丁目の夕日	24
14	D 336	ゲド戦記	24
16	D 118	となりのトトロ	21
16	D 167	アラジン	21
18	D 261	ハリーポッターと炎のゴブレット	20
18	D 329	フラガール	20

4 月から 11 月末までに合計 1380 人の鑑賞者がありました。